

6) 金田地区

(1) 金田地区の現状

①人口動向

○平成 27 年の人口は 4,610 人であり、市全体の人口の 3.5%が居住しています。

○人口は、平成 22 年まで減少傾向にありましたが、金田東特定土地
区画整理事業が完了し、平成 27 年では人口・世帯共に増加に転じています。現在、金田西特定土地区画整理事業が施行中であり、今後の人口増が想定されます。

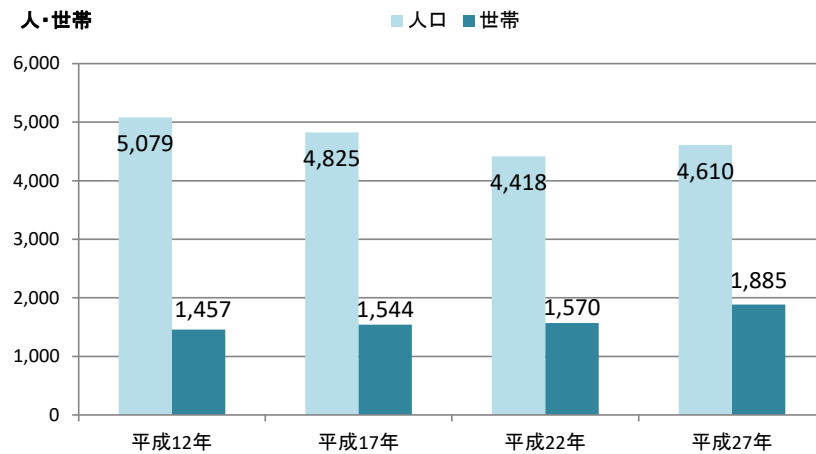
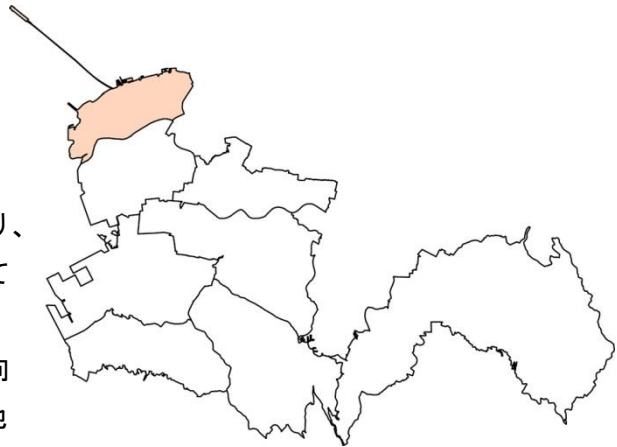


図 人口などの推移

資料：住民基本台帳

②高齢化動向

○平成 27 年の高齢化率は 31.8%ですが、今後の金田西特定土地区画整理事業等の進展状況により、人口構成の変化も考えられます。

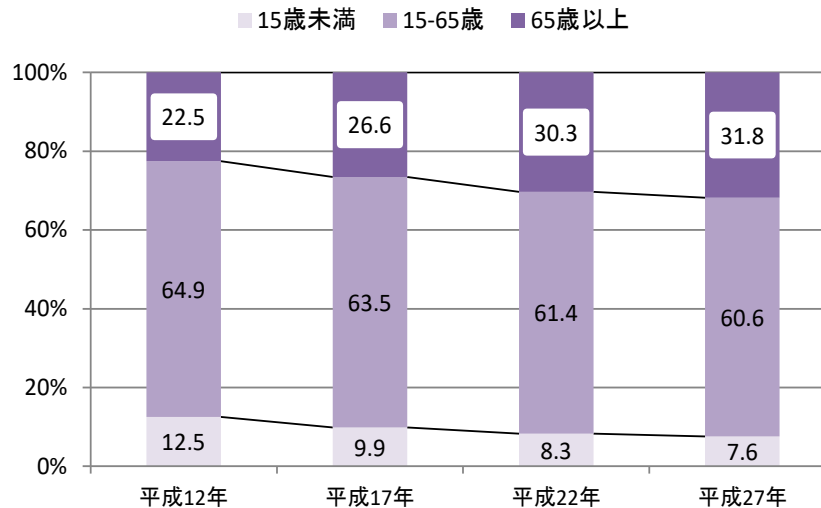


図 年齢3区分別人口の推移

資料：住民基本台帳

③土地利用

- 市全体と比較し、都市的土地利用の割合が高くなっています。
- 金田東地区では土地区画整理事業が完了し、大規模な商業・業務施設が立地するなど、都市形成が進んでいます。金田西地区では土地区画整理事業が進められています。
- 市街化調整区域は水田が主体となっていますが、荒地や耕作放棄地となっている部分も見られます。
- 小櫃川の沿岸には貴重な自然が広がり、河口部の盤洲干潟は東京湾最大の自然干潟となっています。
- 沿岸部には漁港があり漁村集落が形成されています。また、大規模な宿泊施設も立地しています。



大型集客施設



沿岸部の漁港と漁村集落

④都市施設

- 地区内の都市計画道路の整備は土地区画整理事業に伴い進んでおり、都市公園の整備も計画されています。
- 木更津金田バスターミナルの整備が進行しています。
- アクアラインと木更津金田インターチェンジが整備されています。



(都) 3・3・7 中野畑沢線



さざなみ公園

⑤住民意向

ア. 市民アンケート調査

地区住民へのアンケート調査の結果、「地区の現状」及び「地区の将来イメージ」の設問に対する主な回答は以下のとおりです。

■地区の現状

- 住宅地に自動車が侵入して危険
- 地震や津波、洪水など災害時の危険性が高い
- バスや鉄道等の公共交通が不便
- 街路樹や公園などの草木や施設の手入れが不十分
- 地域の下水道の整備が不十分
- 地域での交流やふれあいの場が不足している
- 公園やオープンスペースが不足している

■地区の将来イメージ

- 大規模ショッピングモールなどを活かした賑わいのまち
- 通勤・通学・買い物など、生活に便利なまち
- 防災・防犯対策の充実した安全・安心のまち
- 丘陵の豊かなみどりや干潟など自然環境が豊かなまち
- みなとまちや海辺を活かした海のまち

イ. タウンミーティング(市民懇談会)

地区で実施したタウンミーティング(市民懇談会)で寄せられたまちづくりの主なアイデアは、以下のとおりです。

- 都市計画道路の計画的な整備
- 公園の計画的な整備
- 干潟など自然環境の活用による交流促進

（２）金田地区の課題

金田地区の現状、市民アンケート調査、タウンミーティング(市民懇談会)での市民意見を踏まえ、地区のまちづくりの課題を以下のように整理します。

＜土地利用＞

- 土地区画整理事業の促進による良好な住環境の形成を図るとともに、周辺の商業・業務地や自然環境との調和が必要です。
- 荒地・耕作放棄地の活用方策の検討が必要です。
- 木更津金田インターチェンジ周辺の市街化調整区域は、その立地ポテンシャルを活かした計画的な土地利用を図ることが課題となっています。

＜都市施設＞

- 集落地内や既成市街地の道路では、狭隘道路、袋小路、見通しの悪い交差点の改善など交通安全の確保を図る必要があります。
- 高齢社会への対応や生活の利便性向上のため、公共交通の改善が必要です。
- かずさアクアシティでは、金田東1号近隣公園他金田東地区の7箇所の街区公園等の着実な整備推進が必要です。
- 公共下水道の整備促進が課題となっています。

＜都市防災＞

- 津波被害や浸水被害など、災害の危険性に応じた防災対策が必要です。
- 集落地内の適切な防災措置が必要です。

＜都市環境＞

- 盤洲干潟などの貴重な自然の保全と活用が必要です。
- 小櫃川河川敷の自然環境の保全と活用が望まれます。
- 牛込・中野や瓜倉・畔戸などの優良農地の保全と農業環境の活用が望まれます。
- 漁港や海、集落等、沿岸部の良好な景観の保全が望まれます。

(3) 金田地区まちづくり方針

- ①かずさアクアシティ地区を中心とした賑わいのある交流拠点の形成
- ②地域生活の利便性・安全性に配慮したまちづくり
- ③海とのふれあいの場となる水辺空間の活用
- ④安全な暮らしの確保

①かずさアクアシティ地区を中心とした賑わいのある交流拠点の形成

- かずさアクアシティ地区では、交流拠点の形成のため、千葉県の玄関口としてふさわしい商業・業務地を形成します。また、商業・業務地等については、緑地等の緩衝帯を設け、周辺の良い住環境の維持を図ります。
- かずさアクアシティ内の新たな住宅地は、戸建て低層住宅を中心に集合住宅や生活利便施設を計画的に配置し、良好な住環境の形成を図ります。
- 金田東地区内に金田東1号近隣公園他金田東地区の7箇所の街区公園の整備を推進します。また、金田西地区内に近隣公園1箇所他6箇所の街区公園の整備を推進します。
- 東京湾岸道路（（都）3・1・28 金田湾岸線）や（都）3・3・7 中野畑沢線の整備を促進します。また、（都）3・1・29 中島高柳線（アクアライン連絡道側道）の整備を促進することにより、小櫃川対岸への連絡の強化を図ります。
- 木更津金田バスターミナルを整備し、将来的に広域的な高速バスのハブ機能の導入について事業者や関係機関との調整を図りながら検討します。

②地域生活の利便性・安全性に配慮したまちづくり

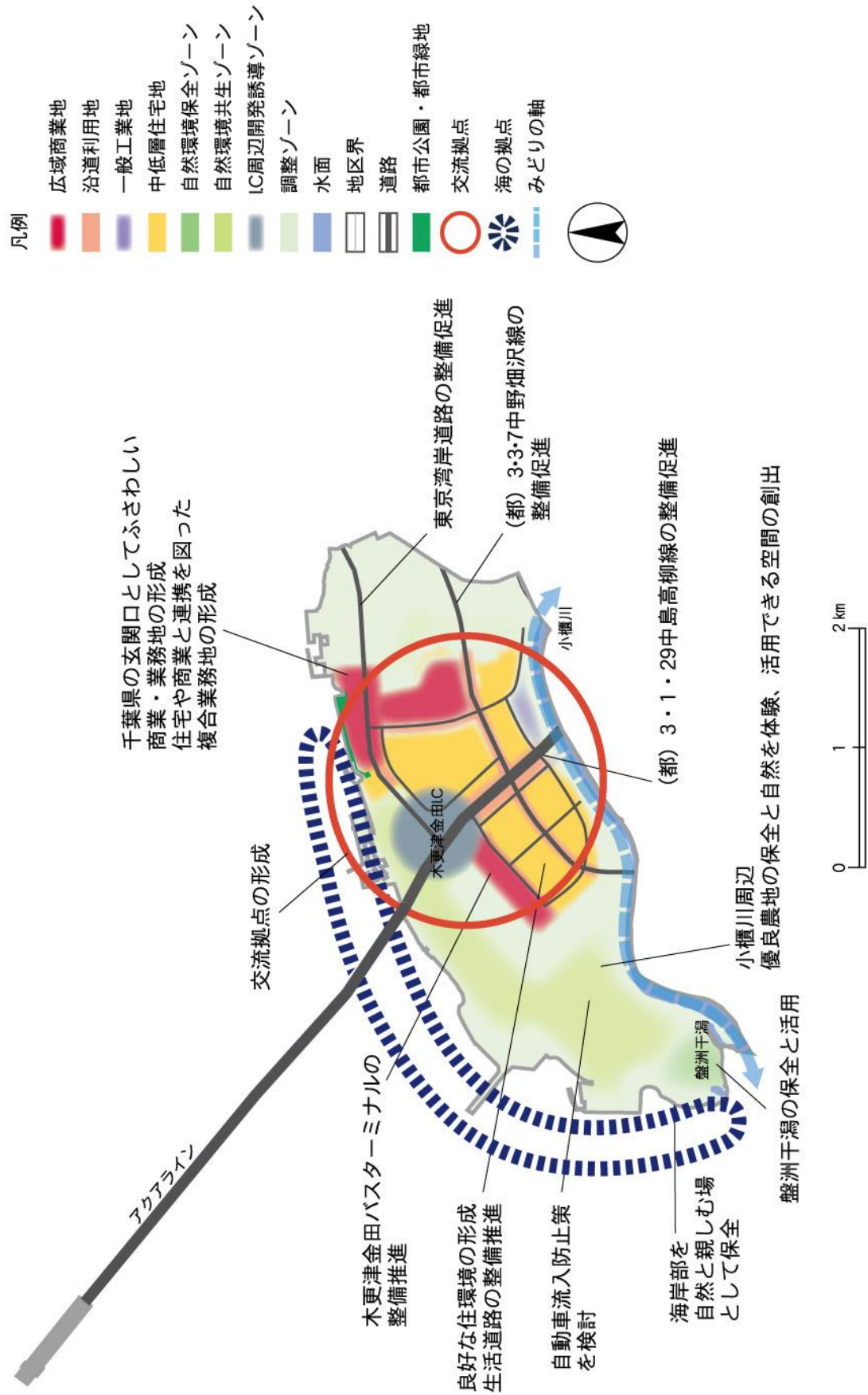
- 中島の既成市街地は、戸建て低層住宅を中心として、狭隘道路の改善などによる住環境の向上を図ります。
- 集落地では、隣接開発地区と連携し、周辺環境との調和に配慮しながら、地区計画又は開発許可制度の運用により、田園型住宅等の立地を誘導し、地域コミュニティの維持・活性化を図ります。
- 生活道路の整備を推進するとともに、交通混雑時の生活道路内への自動車の流入防止策を検討します。
- 地域公共交通網の形成について、事業者や関係機関との調整を図りながら検討します。

③海とのふれあいの場となる水辺空間の活用

- 小櫃川河口部は、多様な生物の生息地であり、国内でも有数の貴重な干潟や自然海岸として保全を図ります。また、盤洲干潟については、千葉県自然環境保全地域の指定に向け、関係機関、自然保護団体と協議を継続します。
- 海や漁港などから形成される沿岸部は、地場産業の漁業体験など地域振興との調和に配慮しながら自然と親しむ場として活用します。
- 小櫃川周辺の田園地帯については、優良農地として保全を図るとともに、市民農園、観光農園等、自然を体験、活用できる空間の創出を検討します。
- 海岸部のアクセス性の向上を図るため、海岸沿いと集落地、漁港等を結ぶ車道及び歩道の整備を推進します。

④安全な暮らしの確保

- 海岸部では海岸保全施設等の整備に努めるなど、津波対策を検討します。
- 避難所・避難路の確保を図るとともに、コミュニティ単位に備蓄倉庫などの防災施設や自主防災組織等の防災体制を整備・拡充します。
- 今後の新しい都市的土地利用にあたっては、遊水・雨水貯留、雨水浸透機能について検討します。



金田地区 まちづくり方針図